

米の需給見通しについて

令和8年9月
農林水産省
農 産 局

目 次

【米の需給見通しについて】

○ 令和8年産水稻の10a当たり収量の平均比見込み（8月15日現在）	2
○ 令和8年産の主食用米等の生産見通しの算出（試算）	3
○ 政府備蓄米の売渡しに係る備蓄水準の回復について	4
○ 基本指針の変更（案）のポイント（玄米ベース）	5
○ 基本指針の変更（案）のポイント（精米ベース）	6
○ 政府備蓄米の在庫状況について	7

【参考資料】

○ 政府備蓄米の買戻し条件付売渡しの状況	9
○ 随意契約による政府備蓄米の売渡しの状況	10
○ 令和8年産政府備蓄米の買入れについて	11
○ 主食用米の需要量の推移	12
○ 相対取引価格と民間在庫量の推移	13
○ 令和8／9年の主食用米等の需要見通しの算出	14
○ インバウンド需要の増加	15
○ SBS米の輸入状況	16
○ 民間貿易による輸入状況（枠外輸入）	17
○ 水田における作付意向について（令和8年産第3回中間的取組状況（令和8年6月末時点））	18
○ 出荷（集荷業者）＋販売（卸売業者）段階の民間在庫量の月別の推移（令和8年7月末時点）	19
○ 令和8年7月末民間在庫量	20
○ 令和7年産米の集荷業者の集荷・販売状況	21
○ 米の販売数量等の推移	22
○ 精米事業者のとう精数量実績調査結果（とう精数量）について	23
○ 精米事業者のとう精数量実績調査結果（精米歩留り）について	24
○ 相対取引価格の推移（令和3年産～令和7年産）	25
○ スーパーでの販売数量・価格の推移（POSデータに基づき作成、全国・週次）	26
○ 米穀周年供給・需要拡大支援事業の令和8年度の状況について	27

令和 8 年産水稻の10 a 当たり収量の平均比見込み（8 月15日現在）

○ 「令和 8 年産水稻の 8 月15日現在における10a当たり収量の平均比見込み及び前年比見込み」（8 月31日公表）によれば、令和 8 年産米の10 a 当たり収量の平均比見込みは、
「やや上回る」が24道府県、「平均並み」が19都県、「やや下回る」が3 県の見込み。

区分	10a当たり収量の 平均比見込み	区分	10a当たり収量の 平均比見込み
北海道	やや上回る	東京	平均並み
青森	やや下回る	神奈川	平均並み
岩手	やや下回る	新潟	やや上回る
宮城	平均並み	富山	やや上回る
秋田	平均並み	石川	やや上回る
山形	やや上回る	福井	やや上回る
福島	平均並み	山梨	やや上回る
茨城	平均並み	長野	平均並み
栃木	平均並み	岐阜	平均並み
群馬	平均並み	静岡	平均並み
埼玉	やや上回る	愛知	平均並み
千葉	やや下回る	三重	平均並み

区分	10a当たり収量の 平均比見込み	区分	10a当たり収量の 平均比見込み
滋賀	やや上回る	徳島 (普通栽培)	やや上回る
京都	やや上回る	香川	平均並み
大阪	やや上回る	愛媛	平均並み
兵庫	平均並み	高知 (普通栽培)	やや上回る
奈良	やや上回る	福岡	やや上回る
和歌山	やや上回る	佐賀	やや上回る
鳥取	やや上回る	長崎	やや上回る
島根	やや上回る	熊本	やや上回る
岡山	やや上回る	大分	平均並み
広島	平均並み	宮崎 (普通栽培)	やや上回る
山口	平均並み	鹿児島 (普通栽培)	やや上回る

注：1 10 a 当たり収量の平均比見込みとは、10 a 当たり予想収量が10 a 当たり平均収量（前年産までの 5 か年中 3 年平均（最高、最低除く））と比較して多いか少ないかを表している。
2 本表における10a当たり収量の平均比見込み区分は、「上回る」が対平均比106%以上、「やや上回る」が105～102%、「平均並み」が101～99%、「やや下回る」が98～95%、「下回る」が94%以下に相当する。
3 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県は早期栽培を含まない普通栽培のみの平均比見込みである。

令和8年産の主食用米等の生産見通しの算出（試算）

【令和8年産の主食用米等の生産見通しの算出方法】

I 水田における作付意向（令和8年6月末時点）

各県の令和8年6月末時点の主食用米の作付意向面積：全国計136.0万ha

II 令和8年産水稻の8月15日現在における10a当たり収量の平均比見込み

8年産水稻の10a当たり収量の平均比見込み		都道府県数
上回る	（対平均比 106%以上）	0
やや上回る	（対平均比 105%～102%）	24
平均並み	（対平均比 101%～ 99%）	19
やや下回る	（対平均比 98%～ 95%）	3
下回る	（対平均比 94%以下）	0

III 令和8年産の主食用米等の生産見通し

令和8年産の主食用米等の生産見通しは、

- ① 各県ごとに、Iの主食用米作付意向（6月末時点）面積（ha）に10a当たり平均収量及びIIの令和8年産水稻の8月15日現在における10a当たり収量の平均比見込み（最小値、中央値及び最大値）を乗じて生産見通しを算出

$$\begin{array}{ccccccc} \text{8年産} & & \text{8年産} & & \text{10a当たり} & & \text{8年産} \\ \text{主食用米等の生産見通し} & = & \text{主食用米作付意向面積} & \times & \text{平均収量} & \times & \text{10a当たり収量の} \\ & & & & \text{(5中3平均)} & & \text{平均比見込み} \\ & & & & & & \text{(最小値、中央値、最大値)} \end{array}$$

- ② ①の各県別の生産見通しを合計した全国計の最小値・中央値・最大値を幅をもって設定。
なお、精米ベースの生産見通しは、精米歩留りの直近5年最小値と平均値を用いて、幅をもって設定。

玄米ベース： 735 ～ 745 ～ 754万玄米トン（※）

↓ 歩留り0.886 中央値 ↓ 歩留り0.894

精米ベース： 652 ～ 663 ～ 674万精米トン（※）

※ 本年10月中旬公表予定の作物統計調査（9/25現在の予想収穫量）が公表された以降は、当該数値に置き換え（ふるい目幅1.7mm以上（参考値）に加え、農家ふるい目以上での収穫量も付記）

政府備蓄米の売渡しに係る備蓄水準の回復について

- 政府備蓄米は、**食料安全保障**の観点から、適正水準への回復を進めていく。
- 政府備蓄米の売渡し（全体で59万玄米トン）に係る備蓄水準の回復は、**供給不足になる状況を避けつつ、適正水準に向けて着実に回復**を図る観点から、令和9/10年以降も含め、**今後、計画的に実施**。
- **急激な需給変動を避ける**とともに、政府備蓄米の**年産構成の適正化**を図る観点も踏まえ、**令和7年産米21万玄米トン**（昨年度買入れを中止した数量に相当）の買戻しを進めるとともに、引き続き、今後の需給状況等を見定めた上で対応。また、今後順次、備蓄期間が経過している備蓄米を飼料用等の非主食用に販売。

<今回の政府備蓄米の買戻しについて>

買戻しの方法

随意契約（一般競争入札により買戻し条件付きで売渡した政府備蓄米の買受者の中から、見積合せにより契約相手を決定）

買入価格・契約相手の決定

- ・見積合せにより契約相手を決定
- ・予算決算及び会計令に基づき、取引の実例価格、需給の状況、履行の難易、数量の多寡、履行期間の長短等を考慮して適正に予定価格を定める。

開始時期

令和8年9月初旬公示（予定）

今回の買戻しにおける対象米穀・数量

対象米穀：国内産米穀（水稻うるち玄米（1～3等））

対象数量・年産：7年産米21万玄米トン

参加資格者

一般競争入札により買戻し条件付きで売渡した政府備蓄米の買受者

基本指針の変更（案）のポイント（玄米ベース）

【前回(令和8年7月28日)】

【令和7/8年の主食用米等の需給実績(玄米ベース)】<速報値>

万玄米トン			
令和7/8年	令和7年6月末民間在庫量	A	155
	令和7年産主食用米等生産量	B=C+D	747
	うち生産者ふるい目幅以上	C	718
	うち生産者ふるい目幅未満のうち、主食用への供給見込量	D	29
	令和7/8年政府備蓄米供給量	E	23
	令和7/8年主食用米等供給量計	F=A+B+E	925
	令和7/8年主食用米等需要量	G	683
	令和8年6月末民間在庫量	H=F-G	243

作付意向調査(令和8年6月末時点)を踏まえた見直し

【令和8/9年の主食用米等の需給見通し(玄米ベース)】

令和8/9年	令和8年6月末民間在庫量	H	243	243
	令和8年産主食用米等生産量※1	I	711	732
	令和8/9年主食用米等供給量計	J=H+I	954	974
	令和8/9年主食用米等需要量	K	693~711	693~711
	令和9年6月末民間在庫量※3	L=J-K	242~260	263~281

※1 事前契約による令和8年産備蓄米の政府買入契約数量は21万玄米トン。これは、上記の令和8年産主食用米等生産量には含まれていない。

※2 政府備蓄米の売渡し(全体で59万玄米トン)に係る買戻し及び買入れは、供給不足が生じる見込みが低い環境下で行うことが必要であることから、令和8年産米の作柄を含め、今後の需給状況等を見定めた上で、時期・数量を判断。その上で、基本指針第3の1(1)②の備蓄期間が経過している備蓄米(令和2年産米)の販売に向けて準備。

※3 上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、基本指針第4の2のSBS方式や枠外の民間輸入(令和7年度:約11万実トン)による輸入米は含まれていない。

※4 上記の需給見通しについては、今後の生産量や需要量の変動の把握に努め、必要に応じて柔軟に見直す。

【今回(令和8年9月2日)】

【令和7/8年の主食用米等の需給実績(玄米ベース)】<速報値>

万玄米トン			
令和7/8年	令和7年6月末民間在庫量	A	155
	令和7年産主食用米等生産量	B=C+D	747
	うち生産者ふるい目幅以上	C	718
	うち生産者ふるい目幅未満のうち、主食用への供給見込量	D	29
	令和7/8年政府備蓄米供給量	E	23
	令和7/8年主食用米等供給量計	F=A+B+E	925
	令和7/8年主食用米等需要量	G	683
	令和8年6月末民間在庫量	H=F-G	243

今回の政府備蓄米の買戻し(21万玄米トン)を踏まえた需給見直し

【令和8/9年の主食用米等の需給見通し(玄米ベース)】

令和8/9年	令和8年6月末民間在庫量	H	243	243
	令和8年産主食用米等生産量※1※2	I	最小値 中央値 最大値 735~745~754	最小値 中央値 最大値 735~745~754
	令和8/9年主食用米等供給量計	J=H+I	978~988~997	978~988~997
	令和8/9年主食用米等需要量	K	693~711	693~711
	政府備蓄米の買戻し	L	-	21※3
	令和9年6月末民間在庫量※4	M=J-K-L	267~285~304	246~264~283

※1 事前契約による令和8年産備蓄米の政府買入契約数量は21万玄米トン。これは、上記の令和8年産主食用米等生産量には含まれていない。

※2 令和8年産主食用米等の生産量については、令和8年6月末時点の水田における作付意向や10a当たり平均収量(5中3平均)、8月15日現在における10a当たり収量の平均比見込みを考慮して、幅をもって設定したもの。8月20日までの営農計画書等の変更を踏まえた水田における作付面積や作物統計の調査結果により今後変更される見込み。

※3 政府備蓄米の売渡し(全体で59万玄米トン)に係る備蓄水準の回復は、供給不足になる状況避けつつ、適正水準に向けて着実に回復を図る観点から、令和9/10年以降も含め、今後、計画的に実施。急激な需給変動を避けるとともに、政府備蓄米の年産構成の適正化を図る観点も踏まえ、令和7年産米21万玄米トン(昨年度買入れを中止した数量に相当)の買戻しを進めるとともに、引き続き、今後の需給状況等を見定めた上で対応。また、今後順次、基本指針第3の1(1)②の備蓄期間が経過している備蓄米を飼料用等の非主食用に販売。

※4 上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、基本指針第4の2のSBS方式や枠外の民間輸入(令和7年度:約11万実トン)による輸入米は含まれていない。

※5 上記の需給見通しについては、今後の生産量や需要量の変動の把握に努め、必要に応じて柔軟に見直す。

【参考】
・長期計画的な販売支援(32万トン)
・民間備蓄実証事業(6万トン)

長期計画販売	実証事業
「38」	32 6



基本指針の変更（案）のポイント（精米ベース）

【前回(令和8年7月28日)】

【令和7/8年の主食用米等の需給実績(精米ベース)】<速報値>

万精米トン

令和7/8年	令和7年6月末民間在庫量	A	138
	令和7年産主食用米等生産量	B=C+D	663
	うち生産者ふり目幅以上	C	
	うち生産者ふり目幅未満のうち、主食用への供給見込量	D	
	令和7/8年政府備蓄米供給量	E	21
	令和7/8年主食用米等供給量計	F=A+B+E	823
	令和7/8年主食用米等需要量	G	607
	令和8年6月末民間在庫量	H=F-G	216

作付意向調査(令和8年6月末時点)を踏まえた見通し

【令和8/9年の主食用米等の需給見通し(精米ベース)】

令和8/9年	令和8年6月末民間在庫量	H	216	216
	令和8年産主食用米等生産量 ※1	I	630~635	648~654
	令和8/9年主食用米等供給量計	J=H+I	846~851	864~870
	令和8/9年主食用米等需要量	K	620~630	620~630
	令和9年6月末民間在庫量 ※3	L=J-K	215~231	234~250

※1 事前契約による令和8年産備蓄米の政府買入契約数量は21万玄米トン。これは、上記の令和8年産主食用米等生産量には含まれていない。

※2 政府備蓄米の売渡し(全体で59万玄米トン)に係る買戻し及び買入れは、供給不足が生じる見込みが低い環境下で行うことが必要であることから、令和8年産米の作柄を含め、今後の需給状況等を見定めた上で、時期・数量を判断。その上で、基本指針第3の1(1)②の備蓄期間が経過している備蓄米(令和2年産米)の販売に向けて準備。

※3 上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、基本指針第4の2のSBS方式や枠外の民間輸入(令和7年度:約11万実トン)による輸入米は含まれていない。

※4 上記の需給見通しについては、今後の生産量や需要量の変動の把握に努め、必要に応じて柔軟に見直す。

【今回(令和8年9月2日)】

【令和7/8年の主食用米等の需給実績(精米ベース)】<速報値>

万精米トン

令和7/8年	令和7年6月末民間在庫量	A	138
	令和7年産主食用米等生産量	B=C+D	663
	うち生産者ふり目幅以上	C	
	うち生産者ふり目幅未満のうち、主食用への供給見込量	D	
	令和7/8年政府備蓄米供給量	E	21
	令和7/8年主食用米等供給量計	F=A+B+E	823
	令和7/8年主食用米等需要量	G	607
	令和8年6月末民間在庫量	H=F-G	216

今回の政府備蓄米の買戻し(21万玄米トン)を踏まえた需給見通し

【令和8/9年の主食用米等の需給見通し(精米ベース)】

令和8/9年	令和8年6月末民間在庫量	H	216	216
	令和8年産主食用米等生産量 ※1 ※2	I	最小値 中央値 最大値 652~663~674	最小値 中央値 最大値 652~663~674
	令和8/9年主食用米等供給量計	J=H+I	867~879~890	867~879~890
	令和8/9年主食用米等需要量	K	620~630	620~630
	政府備蓄米の買戻し	L	-	19 ※3
	令和9年6月末民間在庫量 ※4	M=J-K-L	237~254~270	218~235~252

※1 事前契約による令和8年産備蓄米の政府買入契約数量は21万玄米トン。これは、上記の令和8年産主食用米等生産量には含まれていない。

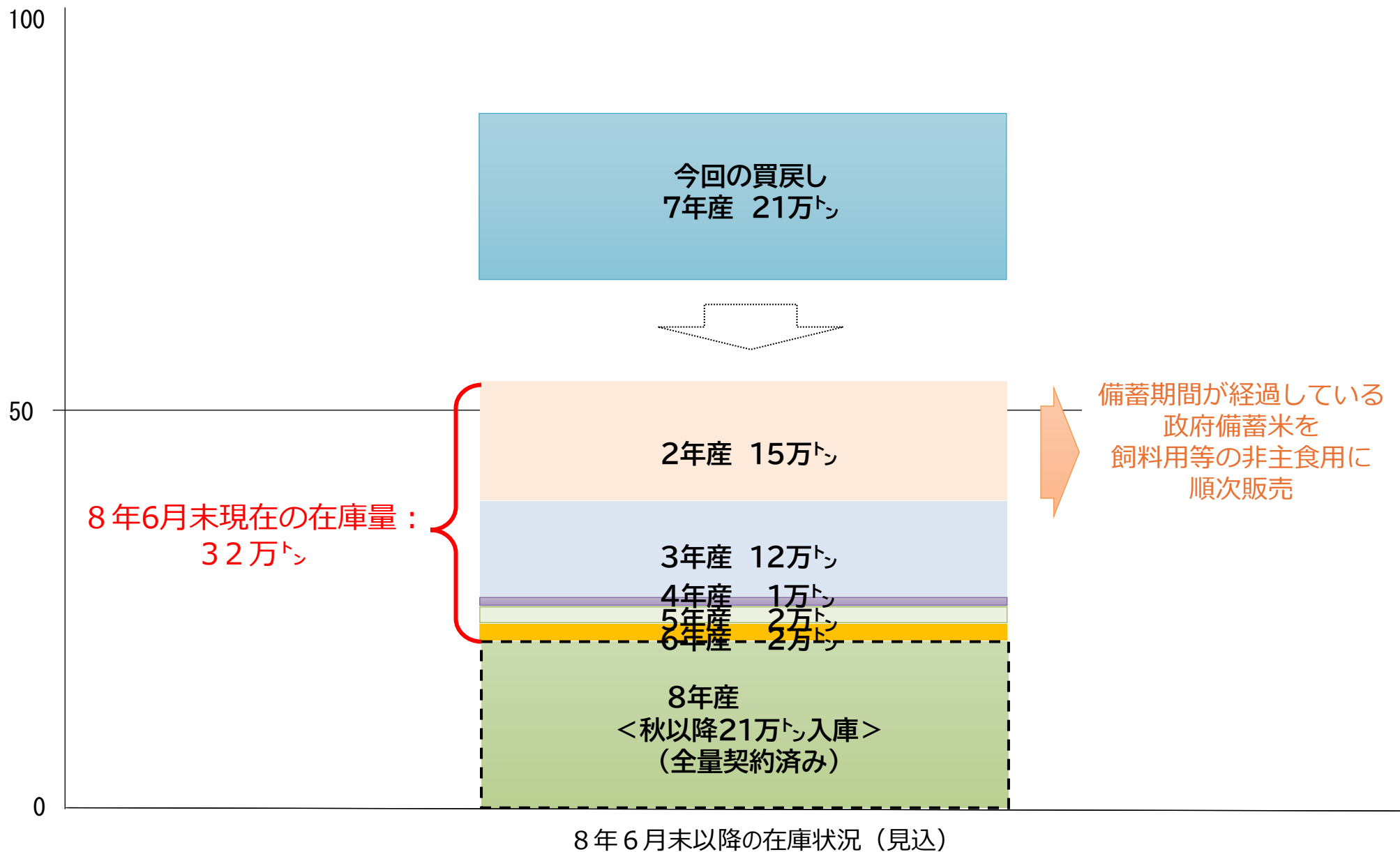
※2 令和8年産主食用米等の生産量については、令和8年6月末時点の水田における作付意向や10a当たり平均収量(5中3平均)、8月15日現在における10a当たり収量の平均比見込みを考慮して、幅をもって設定したもの。8月20日までの営農計画書等の変更を踏まえた水田における作付面積や作物統計の調査結果により今後変更される見込み。

※3 政府備蓄米の売渡し(全体で59万玄米トン)に係る備蓄水準の回復は、供給不足になる状況避けつつ、適正水準に向けて着実に回復を図る観点から、令和9/10年以降も含め、今後、計画的に実施。急激な需給変動を避けるとともに、政府備蓄米の年産構成の適正化を図る観点も踏まえ、令和7年産米21万玄米トン(昨年度買入れを中止した数量に相当)の買戻しを進めるとともに、引き続き、今後の需給状況等を見定めた上で対応。また、今後順次、基本指針第3の1(1)②の備蓄期間が経過している備蓄米を飼料用等の非主食用に販売。

※4 上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、基本指針第4の2のSBS方式や枠外の民間輸入(令和7年度:約11万実トン)による輸入米は含まれていない。

※5 上記の需給見通しについては、今後の生産量や需要量の変動の把握に努め、必要に応じて柔軟に見直す。

政府備蓄米の在庫状況について



※ 買戻し条件付き売渡し31万トン（契約数量ベース）、随意契約による売渡し28万トン（申込確定数量ベース） 計59万トン

米の需給に関するその他参考資料

政府備蓄米の買戻し条件付売渡しの状況

- 買受者に対する主食用としての備蓄米の売渡しを、政府が当該買受者から一定期間後（原則として売渡しから5年以内（双方協議の上延長することも可能））に当該備蓄米と同等同量の国内産米の買入れを行うとの条件を付した上で販売。
- 併せて、①地域ごとの需給状況、スーパー等の小売事業者などの調達状況や学校給食等向けの円滑な供給などにも配慮した円滑な流通確保及び消費者への安定供給に向けた対応や、②米トレサ法、食品衛生法等の遵守・取引先への働きかけについて、集荷業者、卸売業者、小売業者等に対して通知（令和7年3月14日発出）。
- さらに、政府備蓄米の取引をするにあたって、地域ごとの需給状況にも配慮した供給とともに、卸売業者の販売先の業態、規模の大小、既存の取引先か否かに限らず、事業者と協議を進め、市場への供給を早急に拡大する等、円滑な流通の確保に一層努めてもらうよう、米の流通関係者に対して通知（令和7年4月30日発出）

<政府備蓄米の買戻し条件付売渡しの状況>

販売対象者

以下の条件を全て満たす者

- ・ 年間の玄米仕入量が5,000トン以上の集荷業者
- ・ 令和7年8月末までの卸売業者等への販売の計画・契約を有する者
（入札の際に当省に販売計画等を提出）

販売価格

今般の政府備蓄米の販売にあたっては、「財政法」及び「予算決算及び会計令」に基づき、現在の価値（市場価格等）により最低販売価格を設定し、競争入札を実施。

卸売業者等への販売状況の報告・公表

- ・ 買受者から販売数量・金額を隔週で農林水産省へ報告
- ・ 報告内容は当省で取りまとめ、農林水産省HPで公表

販売対象米穀・数量

申込上限数量：「売渡予定数量」×「申請者の集荷数量のシェア」に基づき上限を設定

対象米穀：令和6年産米、5年産米

対象数量：第3回（令和7年4月）まで：31万トン

【入札結果】

第1回入札（執行日：令和7年3月10日～12日、公告日：3月3日）

契約数量：141,796トン 落札価格：21,217円/60kg → 3月18日以降引渡し

第2回入札（執行日：令和7年3月26日～28日、公告日：3月19日）

契約数量：70,336トン 落札価格：20,722円/60kg → 4月11日以降引渡し

第3回入札（執行日：令和7年4月23日～25日、公告日：4月16日）

契約数量：100,164トン 落札価格：20,302円/60kg → 5月14日以降引渡し

※落札価格は、各回において落札された販売区分の加重平均

随意契約による政府備蓄米の売渡しの状況

- 小売業者向けに、政府備蓄米を定価による随意契約により売渡し。（令和7年6月20日より対象者を拡大し、中食・外食（給食等）事業者を追加）
- **買戻し条件**については、今回は**小売業者等に対する売渡しであることから求めないこととするが**、備蓄水準を計画的に回復する観点から、今後環境が整った際には、今回の随意契約による売渡し数量と同量を今後買い入れる方針。
- 今回の売渡しについては、「**政府備蓄米を安価で安定的に供給する**」ことを**目的に実施**することから、会計法第29条の3第4項の「契約の目的が競争を許さない場合」に該当するものとして**随意契約により売渡し**。

<随意契約による政府備蓄米の売渡しの状況>

販売対象者

- ① 大手小売業者
（年間10,000トン以上の取扱数量（見込み含む））
- ② 中小小売業者
（年間1,000トン以上、10,000トン未満の取扱数量（見込み含む））（これらの共同購入を含む）
- ③ 精米能力を有する米穀小売店
（これらの共同購入を含む）
- ④ 中食・外食（給食等）事業者
（これらの共同購入を含む）

販売価格（税抜）

令和4年産：11,010円／60kg
令和3年産：10,080円／60kg
令和2年産：9,140円／60kg

買受者からの販売状況の報告・公表

- ・ 販売数量・金額を隔週で農林水産省へ報告
- ・ POSデータを毎週報告（④には求めない）
- ・ 報告内容は当省で取りまとめ、農林水産省HPで公表

販売対象米穀・数量(令和7年9月30日時点)

(1)令和7年5月26日・27日申込受付

<対象・数量>

①大手小売業者 22万トン(4年産20万トン、3年産2万トン)

→申込確定：200,638トン [59社]

(4年産187,940トン、3年産12,698トン)

(2)令和7年5月30日～申込受付

<対象・数量>

②中小小売業者：6万トン(3年産)

③精米能力を有する米穀小売店：2万トン(3年産)

→申込確定：②28,074トン [185社] ③10,531トン [269社]

(3)令和7年6月11日～申込受付

<対象>

①大手小売業者、②中小小売業者、③精米能力を有する米穀小売店

④中食・外食(給食等)事業者(令和7年6月20日～申込受付)

<数量>

3年産10万トン、2年産10万トン

うち3年産10万トンと中小小売業者向けの残余の約2万トン(3年産)を先行して売渡し

〔→申込確定：①16,913トン[15社] ②5,192トン[56社] ③7,766トン[140社]〕

④10,862トン[182社]

合計 申込確定数量 279,976トン[906社]

※数量は玄米ベース 10

令和8年産政府備蓄米の買入れについて

- 令和8年産の政府備蓄米の買入れについては、下記のとおり、従来通り一般競争入札により、21万トンを対象として、「年明け1月以降、数回程度入札を実施」と示していたところ。

買入れの方法

公平性・透明性を確保する観点から、従来通り一般競争入札により実施（基本指針に規定）

入札の参加資格者

国内産米穀の買入契約に係る一般競争入札に参加する者に必要な資格を有する者

買入価格・落札者の決定

予算決算及び会計令に基づき、取引の実例価格、需給の状況、履行の難易、数量の多寡、履行期間の長短等を考慮して適正に予定価格を定め、低価の入札者から落札者を決定。

対象米穀・数量

対象米穀 国内産米穀（水稻うるち玄米（1～3等））

対象数量・年産 21万トン（8年産）

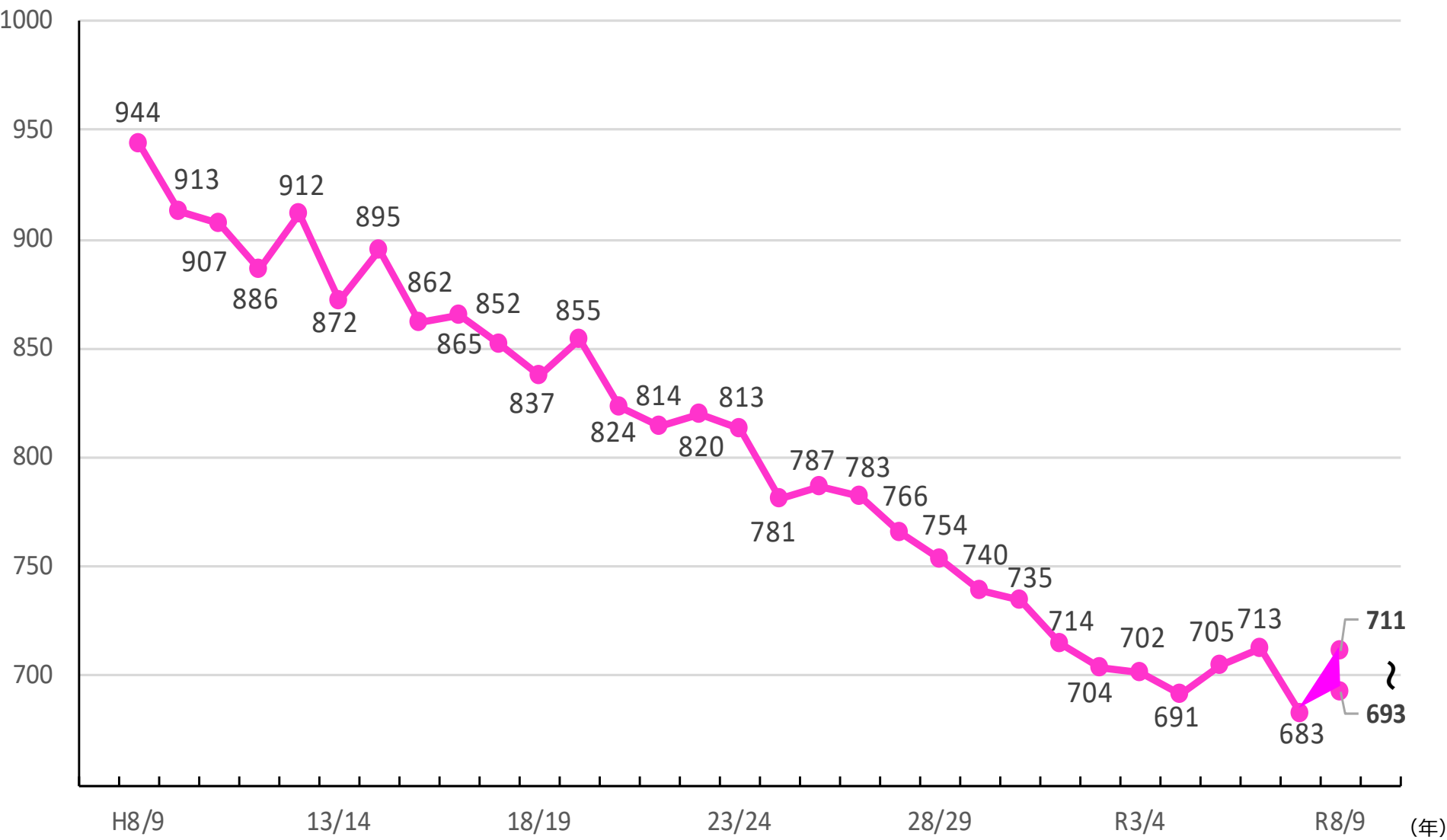
入札結果・予定

第1回入札（公告：令和8年3月13日、入札：4月14日）	落札数量	11,710トン
第2回入札（公告：令和8年4月15日、入札：4月28日）	落札数量	159,722トン
第3回入札（公告：令和8年4月30日、入札：5月26日）	落札数量	32,757トン
第4回入札（公告：令和8年5月27日、入札：6月9日）	落札数量	3,332トン

合計 207,521トン

主食用米の需要量の推移

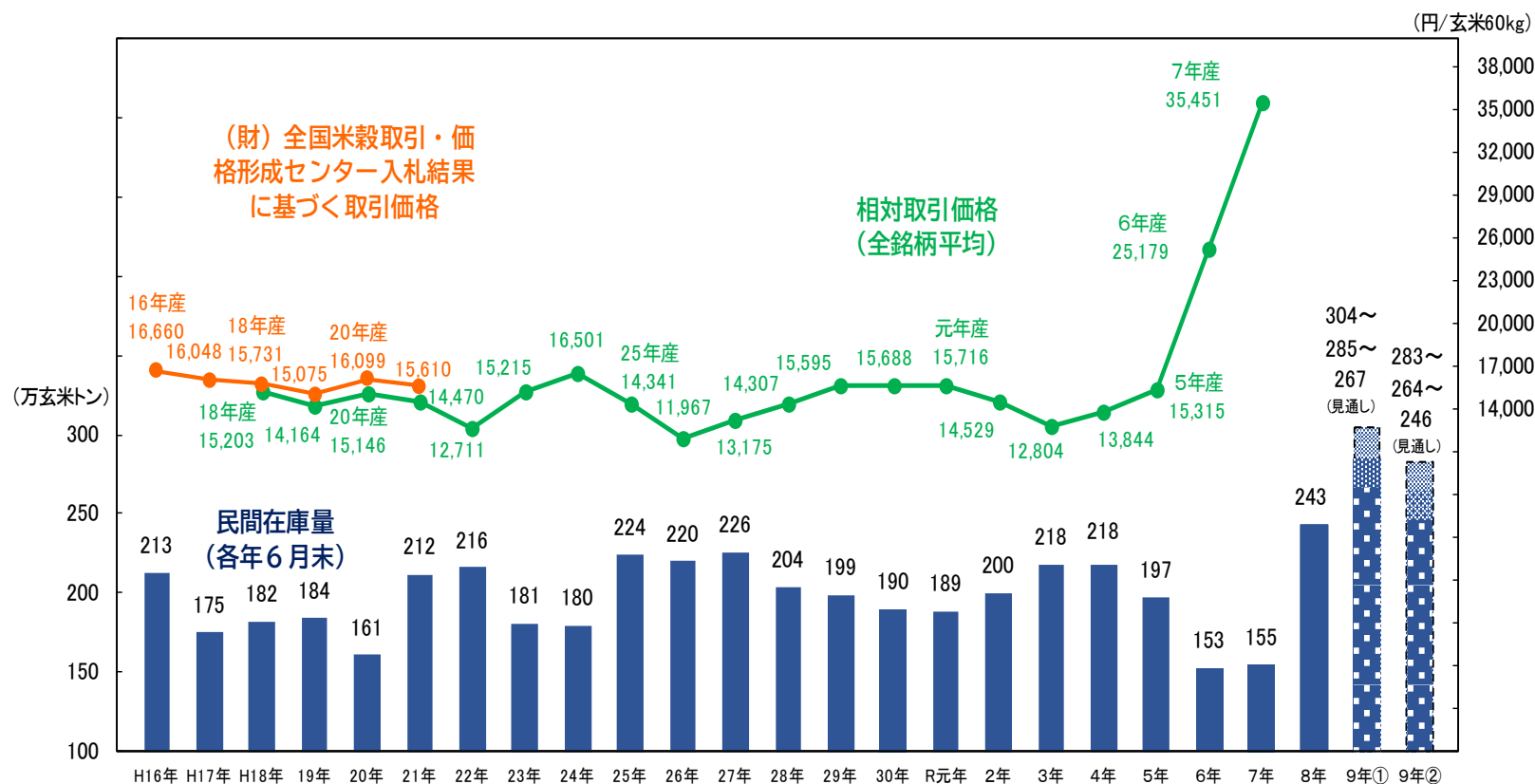
(万玄米トン)



相対取引価格と民間在庫量の推移

- 令和8年6月末の民間在庫量は「243万玄米トン」。令和9年6月末の民間在庫量は「最小値267万玄米トンから最大値304万玄米トン（中央値285万玄米トン）」（政府備蓄米の買戻し（21万玄米トン）を踏まえた見通しは「最小値246万玄米トンから最大値283万玄米トン（中央値264万玄米トン）」）と見込む。

（参考）令和7年6月末の民間在庫量：155万玄米トン、相対取引価格（令和6年産）：25,179円/玄米60kg
平成27年6月末の民間在庫量：226万玄米トン、相対取引価格（平成26年産）：11,967円/玄米60kg



今回の政府備蓄米の買戻し
(21万玄米トン)
を踏まえた見通し

注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（令和7年産は出回りから8年7月までの速報値）の通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

令和8/9年の主食用米等の需要見通しの算出

【算出のポイント】

令和 7 / 8 年需要見通しの算定の考え方を踏襲して設定

- ① 1人当たり消費量：直近5年（令和3/4年～7/8年）の需要実績（精米ベース）を基に、平均値～最大値の幅で設定
- ② 人口、インバウンド需要：令和8/9年の推計値に更新

【令和8/9年の主食用米等の需要見通しの算出方法】

I 1人当たり消費量（精米ベース）

【算出方法】

（

需要実績

—

インバウンド需要量
（推計）

）

÷

人口

=

一人当たり消費量
（インバウンド需要除く）

- ①直近5年平均値

49.9kg/人
- ②直近5年の最大値（令和6/7年）

50.7kg/人

II 令和8/9年需要量（玄米ベース）

一人当たり消費量
（インバウンド需要除く）

令和8年人口
（推計値）

=

令和8/9年需要量
（インバウンド需要除く）

+

令和8/9年
インバウンド需要量（推計）

=

令和8/9年需要量
【精米ベース】

÷0.894

令和8/9年需要量
【玄米ベース】

49.9kg/人

×

122,450千人

=

610.5万トン

+

9.1万トン

=

619.6万トン

→

693.2万トン

50.7kg/人

×

122,450千人

=

621.2万トン

+

9.1万トン

=

630.3万トン

→

711.4万トン

玄米
換算

÷0.886

（参考1）一人当たり消費量（精米）の推移

	需要実績 （万トン）		インバウンド 需要 （万精米トン） ②	人口 （千人） ③	1人当たり 消費量 （精米kg） ①-②÷③
	玄米	精米 ①			
R3/4年	701.5	632.8	0.2	125,502	50.4
R4/5年	691.1	622.3	2.4	124,947	49.6
R5/6年	704.9	626.2	5.9	124,352	49.9
R6/7年	712.7	635.0	7.0	123,802	50.7
R7/8年	682.6	606.9	8.2	123,050	48.7
5年平均					49.9

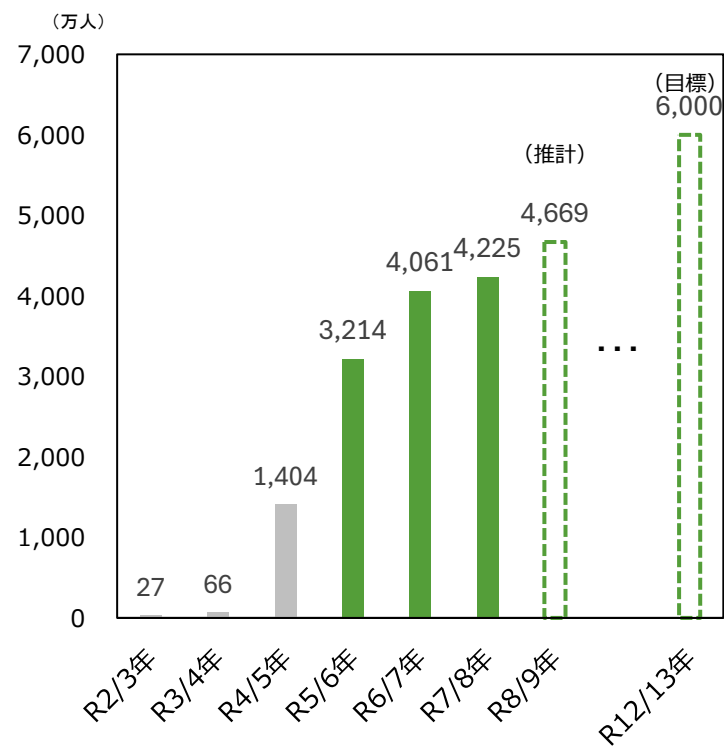
（参考2）精米歩留りの推移（単位：％）

3年産	4年産	5年産	6年産	7年産	5年平均
90.3	90.0	88.6	89.2	88.8	89.4

インバウンド需要の増加

- 推計精度の向上のため、令和7年度に訪日客へのアンケート等により訪日時の喫食の状況を調査。
- 寿司などの外食に加え、おにぎり、巻きずし等のテイクアウト利用も多く、1人1泊あたりのごはん消費量は14か国の平均で570g（精米換算251g）と推定。（注）従来の推計では354g（精米換算156g）と仮定して推計していた。
- 今後の需給見通しは、本データに基づき、インバウンド需要の推計値を更新。

訪日外客数の推移



出典：日本政府観光局「訪日外客統計」

注1：観光目的と観光目的以外（ビジネス等）の総数
注2：政府目標（2030年：6,000万人）に向かって直線的に増加すると仮定して推計
注3：算出にあたって利用した平均泊数のデータは観光庁「インバウンド消費動向調査」であり、暦年の数値で公表されているため、R4/5年はR4年、R5/6年はR5年、R6/7年はR6年の数値などと需給見通しの算定期間にあてはめている。観光目的以外の訪日者（全体数の約1割）については、観光目的の者に比べて消費量が少ない傾向にあることから、今回調査した国籍別の消費量ではなく、日本国民と同等の消費量（過去5年の需要実績の最大値：年間50.7精米kgベース）により算出。令和8年5月及び6月の目的別の訪日外客数は未公表のため、同年4月の目的別割合を各月において各国の訪日外客数の総数に乘ずることで推計。玄米換算は歩留りを一律90.6%で計算

訪日客の国籍別の1人1泊あたりごはん消費量（g）

アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス	オーストラリア	中国	台湾	韓国	香港	フィリピン	タイ	ベトナム	シンガポール	インドネシア	平均
565	567	474	577	497	546	556	499	468	695	629	718	474	714	570

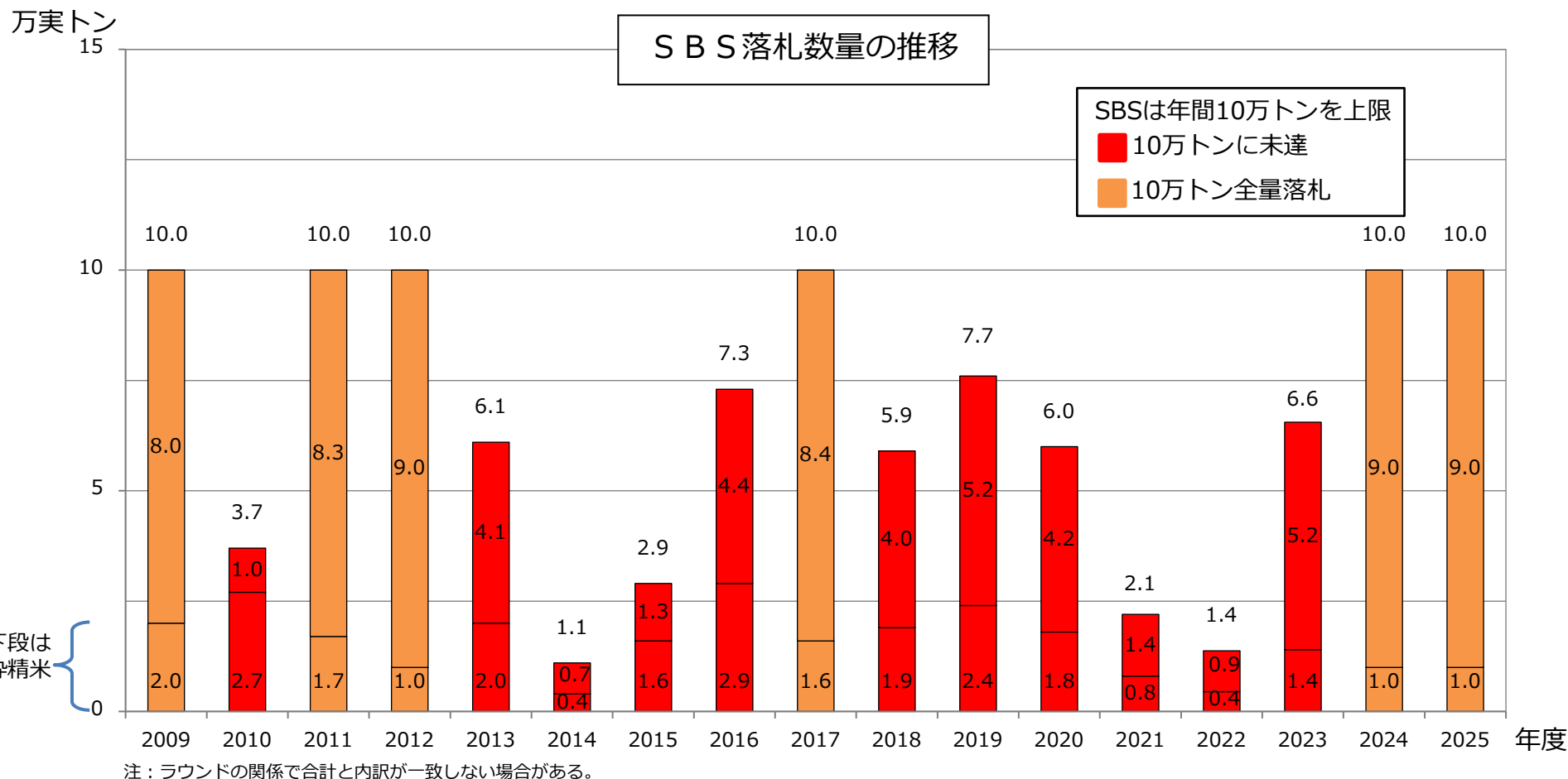


インバウンド需要の推計（見直し後）

	訪日外客数 (注1)	訪日外国人による米の需要量 (注3) (精米ベース)	訪日外国人による米の需要量 (注3) (玄米換算)	【参考】見直し前 訪日外国人による米の需要量 (精米ベース)
R2/3年	27万人	0.1万トン	0.1万トン	0.0万トン
R3/4年	66万人	0.2万トン	0.3万トン	0.1万トン
R4/5年	1,404万人	2.4万トン	2.7万トン	1.9万トン
R5/6年	3,214万人	5.9万トン	6.5万トン	5.1万トン
R6/7年	4,061万人	7.0万トン	7.8万トン	5.7万トン
R7/8年	4,225万人	8.2万トン	9.1万トン	6.1万トン
R8/9年	4,669万人 (注2)	9.1万トン	10.1万トン	6.6万トン
R12/13年	6,000万人 (注2)	11.7万トン	12.9万トン	8.4万トン

S B S 米の輸入状況

- S B S 米は、年間10万トンを上限に輸入され、主に主食用に流通。毎年度、国産米を政府備蓄用に10万トン以上買い入れることにより、国産米の需給に影響を与えないよう措置。
- 国産米の需給が緩和すると、S B S 米の需要が弱まり、国産米の需給が引き締まると、S B S 米の需要が強まる傾向。



民間貿易による輸入状況（枠外輸入）

- 国家貿易以外のコメの輸入（枠外輸入）には、高水準の枠外関税（341円/kg）を設定。貿易統計によると、毎年、インド産やタイ産の長粒種など、600～800トン程度が輸入。
- 2024～2025年度は、国内の米価の高止まりを受けて、S B S輸入の年間上限10万トン全量が落札され、S B S輸入で落札できなかった事業者等が、枠外関税を支払って主食用米を輸入する動きが拡大。
- **2025年度の累計は105,778トン。**このうち、**米国産米の輸入が約8割。**2025年度は2024年度と比べて、**全体は約35倍、米国は約200倍に増加。****2026年度7月末時点の輸入数量は8,620トン。**

＜会計年度（4月～翌3月）ごとの輸入数量＞ （単位：実トン）

2019年度 （令和元年度）	2020年度 （令和2年度）	2021年度 （令和3年度）	2022年度 （令和4年度）	2023年度 （令和5年度）	2024年度 （令和6年度）	2025年度 （令和7年度）	2026年度 （令和8年度）
623トン （173トン）	805トン （176トン）	871トン （201トン）	773トン （135トン）	730トン （59トン）	3,011トン （416トン）	105,778トン （82,804トン）	8,620トン （4,292トン） ※7月末時点

＜月別（7月～翌6月）の輸入数量＞ （単位：実トン）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
2024/2025 （令和6/7）	124 （0）	64 （21）	41 （0）	93 （19）	202 （19）	118 （21）	414 （0）	489 （39）	1,280 （240）	6,838 （5,499）	10,607 （7,894）	20,979 （15,945）	41,249 （29,697）
2025/2026 （令和7/8）	26,397 （22,983）	15,168 （12,951）	6,534 （5,442）	1,475 （215）	2,787 （1,996）	3,866 （2,415）	4,918 （3,443）	4,160 （3,180）	2,049 （841）	3,373 （2,279）	2,754 （1,476）	1,403 （459）	74,884 （57,680）
2026/2027 （令和8/9）	1,090 （78）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	<7月> 1,090 （78）

※ 括弧内は米国からの輸入数量

資料：財務省「貿易統計」
注：枠外関税を支払って、民間貿易により輸入されたコメ（もみ、玄米、精米、碎米の合計）の数量

水田における作付意向について（令和8年産第3回中間的取組状況（令和8年6月末時点））

○ 農林水産省では、産地・生産者が主体的に作付けを判断し、需要に応じた生産・販売を行うことができるよう、都道府県別の作付意向を聞き取り、公表。

○ 令和8年6月末時点の主食用米の作付意向は136.0万ha（対前年0.7万ha減）。4月末時点から0.3万ha減。

注1：主食用米の生産量は、1.70mmふるい目幅の直近5か年中3か年平均の全国単収（538kg/10a）を用いて計算すると、732万玄米トンに相当。

2：6月末時点の作付意向等を踏まえ、令和8年8月20日（木曜日）まで、生産者から地域農業再生協議会に提出する営農計画書等の変更が可能であることなどから、本調査結果は今後変動が見込まれる。

【主食用米、備蓄米及び戦略作物の作付状況】

（万ha）

年 産	主食用米	酒造好適米	備蓄米	戦略作物								合計
				加工用米	新規需要米	新市場開拓用米 （輸出用米等）	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 （稲発酵粗飼料用稲）	麦	大豆	
R4年産	125.1	—	3.6	5.0	20.6	0.7	0.8	14.2	4.8	10.6	8.9	45.1
R5年産	124.2	—	3.5	4.9	20.4	0.9	0.8	13.4	5.3	10.5	8.8	44.5
R6年産	125.9	—	3.0	5.0	17.3	1.1	0.6	9.9	5.6	10.3	8.4	41.1
R7年産	136.7	—	—	4.4	10.8	0.9	0.4	4.6	4.9	9.5	7.5	32.1
R8年産 （6月末時点）	136.0	1.8	3.9	4.5	8.5	1.0	0.6	2.6	4.3	8.6	6.8	28.4
対前年差	-0.7	—	+3.9	+0.1	-2.3	+0.1	+0.2	-2.0	-0.6	-0.9	-0.7	-3.8
4月末時点との差	-0.3	—	+1.2	+0.1	-0.7	+0.0	+0.2	-0.7	-0.2	-0.2	-0.2	-1.0

注1：主食用米、備蓄米及び戦略作物の8年産作付意向は、地方農政局等が6月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦及び大豆は基幹作の面積）。

2：主食用米の7年産以前の実績は、統計部公表の主食用米の作付面積。

3：酒造好適米は、農産物規格規程（平成13年2月28日農林水産省告示第244号）に規定する醸造用玄米のうち、新市場開拓用米に該当するものを除く。

4：備蓄米の8年産作付意向は、政府買入入札の落札数量（21万トン）を1.70mmふるい目幅の直近5か年中3か年平均の全国単収（538kg/10a）で除して算出。

このため、本資料2～5頁の主食用米及び備蓄米の全都道府県の積上げは、1頁の数値と一致しない。なお、備蓄米の6年産以前の実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

5：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の6年産以前の実績は、取組計画の認定面積。7年産は取組計画の届出面積。

なお、新規需要米には、青刈り稲・わら専用稲（飼料作物として用いられるもの）を含む。

6：麦及び大豆の7年産以前の実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

7：単位未満で四捨五入しているため、表記上の数値による計算結果と一致しない場合がある。

出荷（集荷業者）＋販売（卸売業者）段階の民間在庫量の月別の推移（令和8年7月末時点）

- 令和8年7月末現在の全国の民間在庫量は、出荷段階（集荷業者）と販売段階（卸売業者）の計で前年差＋70万玄米トンの162万玄米トンとなっており、出荷段階は前年差＋57万玄米トンの117万玄米トン、販売段階は前年差＋13万玄米トンの45万玄米トンとなっている。
- 販売段階の民間在庫量45万玄米トンは、例年の同時期が20～30万玄米トン程度である中、増加しており、今後の動向を注視。

【民間在庫量の推移(出荷＋販売段階)（速報）】

毎月調査ベース													(単位: 万トン(玄米))
基本指針ベース													6月
元/2年	当年7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年1月	2月	3月	4月	5月	6月	200
対前年差	▲3	▲9	▲10	▲6	▲10	▲17	▲13	▲7	▲6	▲11	▲16	▲23	▲11
元 年 産 米	0	10	115	255	283	294	276	250	221	193	169	146	3
1 年 古 米 (30 年 産)	95	66	43	34	25	16	12	9	7	5	4	3	3
出 荷 段 階	74	55	128	238	257	261	244	219	184	157	138	109	109
対前年差	▲2	▲8	▲8	▲2	▲5	▲13	▲9	▲4	▲1	▲7	▲11	▲8	▲8
販 売 段 階	26	24	33	56	58	57	51	47	49	46	40	45	45
対前年差	±0	▲1	▲2	▲3	▲4	▲4	▲4	▲4	▲5	▲4	▲5	▲14	▲14
2 / 3 年	119	101	190	324	344	342	321	293	265	230	199	173	218
対前年差	▲20	▲21	▲29	▲30	▲29	▲24	▲26	▲27	▲31	▲27	▲21	▲19	▲19
2 年 産 米	0	12	124	266	297	304	291	269	245	214	185	162	7
1 年 古 米 (元 年 産)	112	84	61	51	40	31	23	17	13	11	9	7	7
出 荷 段 階	84	70	151	265	285	284	269	245	217	186	162	132	132
対前年差	▲10	▲15	▲23	▲27	▲27	▲22	▲26	▲27	▲33	▲29	▲24	▲23	▲23
販 売 段 階	35	31	39	59	60	58	52	48	48	44	37	41	41
対前年差	▲10	▲7	▲6	▲3	▲2	▲1	▲1	▲1	▲2	▲2	▲3	▲4	▲4
3 / 4 年	138	118	214	330	351	349	326	299	270	238	204	172	218
対前年差	▲19	▲17	▲24	▲6	▲7	▲5	▲6	▲6	▲7	▲5	▲5	▲1	▲1
3 年 産 米	0	11	129	252	285	293	278	258	236	208	179	149	149
1 年 古 米 (2 年 産)	129	99	77	69	57	47	39	33	28	23	19	17	17
出 荷 段 階	106	90	178	277	298	296	279	256	226	196	169	139	139
対前年差	▲22	▲20	▲27	▲12	▲13	▲12	▲10	▲11	▲9	▲10	▲7	▲7	▲7
販 売 段 階	32	28	36	53	53	53	46	43	44	42	35	32	32
対前年差	▲3	▲2	▲3	▲5	▲7	▲5	▲4	▲4	▲3	▲2	▲2	▲8	▲8
4 / 5 年	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153	197
対前年差	▲4	▲4	▲15	▲18	▲21	▲21	▲20	▲19	▲20	▲18	▲19	▲18	▲21
出 荷 段 階	116	98	166	262	277	276	236	204	176	149	121	121	121
対前年差	▲10	▲8	▲12	▲15	▲21	▲20	▲20	▲22	▲20	▲20	▲18	▲18	▲18
販 売 段 階	26	25	33	50	52	52	47	44	46	43	36	33	33
対前年差	▲6	▲4	▲3	▲3	▲1	▲1	▲1	▲2	▲2	▲2	▲1	±0	±0
5 / 6 年	123	104	199	289	303	298	274	244	214	180	145	115	153
対前年差	▲20	▲18	±0	▲23	▲26	▲31	▲32	▲36	▲37	▲39	▲40	▲38	▲44
出 荷 段 階	95	78	161	235	249	246	228	202	171	139	112	84	84
対前年差	▲21	▲20	▲5	▲27	▲28	▲31	▲31	▲34	▲33	▲36	▲38	▲37	▲37
販 売 段 階	27	26	38	54	54	52	46	42	43	41	34	31	31
対前年差	▲1	▲2	▲5	▲3	▲2	±0	±0	▲3	▲3	▲3	▲3	▲2	▲2
6 / 7 年	82	65	149	244	259	253	229	205	180 (0)	168 (16)	148 (20)	121 (12)	155 (12)
対前年差	▲40	▲39	▲51	▲45	▲44	▲45	▲45	▲39	▲34	▲12	▲3	▲6	▲3
出 荷 段 階	58	44	113	187	200	196	179	159	135 (0)	125 (14)	109 (16)	84 (8)	84 (8)
対前年差	▲38	▲34	▲49	▲49	▲49	▲49	▲49	▲43	▲36	▲14	▲3	±0	±0
販 売 段 階	25	21	36	58	59	56	50	46	45 (0)	43 (2)	40 (3)	37 (4)	37 (4)
対前年差	▲3	▲5	▲2	▲4	▲5	▲4	▲4	▲2	▲2	▲2	▲6	▲6	▲6
7 / 8 年	92 (5)	84 (2)	198 (1)	307 (0)	331 (0)	340 (0)	323 (0)	300 (0)	277 (0)	250 (0)	222 (0)	194 (0)	243 (0)
対前年差	▲10	▲19	▲49	▲63	▲72	▲87	▲93	▲95	▲98	▲81	▲74	▲73	▲88
出 荷 段 階	60 (3)	51 (0)	144 (0)	227 (0)	250 (0)	261 (0)	251 (-)	234 (-)	208 (-)	184 (-)	165 (-)	142 (-)	142 (-)
対前年差	▲2	▲7	▲32	▲40	▲50	▲65	▲71	▲74	▲73	▲59	▲57	▲59	▲59
販 売 段 階	32 (3)	33 (2)	53 (1)	80 (0)	81 (0)	79 (0)	72 (0)	67 (0)	69 (0)	65 (0)	57 (0)	51 (0)	51 (0)
対前年差	▲8	▲12	▲17	▲23	▲22	▲22	▲22	▲21	▲24	▲22	▲18	▲14	▲14
8 / 9 年	162 (0)												242 ~ 260 (見通し)
対前年差	▲70												263 ~ 281 (見通し)
出 荷 段 階	117 (-)												
対前年差	▲57												
販 売 段 階	45 (0)												
対前年差	▲13												

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

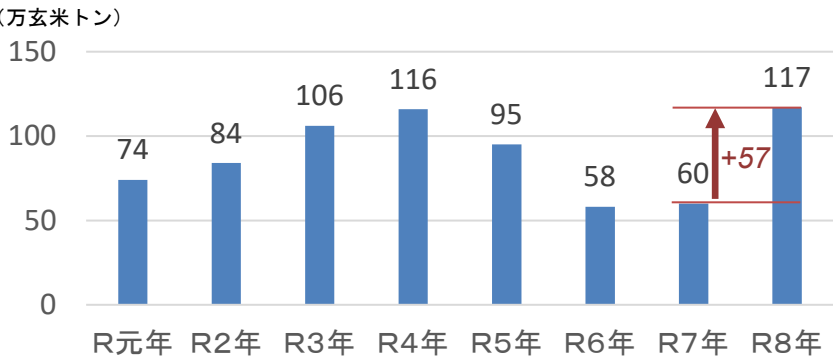
- 注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
4 期間については、/8年であれば、令和8年7月～9年6月である。
5 令和7年3月以降の（）書きは、売り渡した政府備蓄米の在庫数量（内数）である。
6 8 / 9 年の民間在庫量の見通し（令和8年7月基本指針ベース）における263～281万玄米トンについては、作付意向調査（令和8年6月末時点）を踏まえた見通しである。

注6

令和8年7月末民間在庫量

- 令和8年7月末の集荷業者の在庫量は、117万玄米トンで前年同月に比べ57万玄米トン増加。
- 令和8年7月末の卸売業者の在庫量は、45万玄米トンで前年同月に比べ13万玄米トン増加。

【集荷業者の7月末民間在庫量の推移】



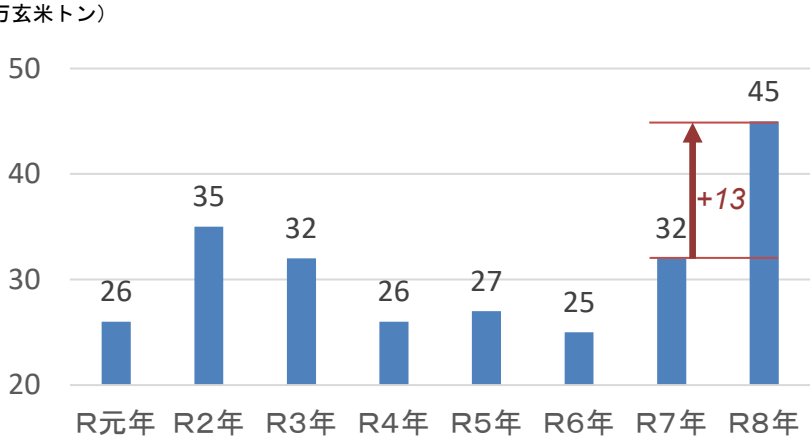
資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米の在庫量（玄米換算）の値である。
注2：年間の玄米仕入量が500トン以上の出荷業者を対象。

【集荷業者の民間在庫量の前年差】

(単位：万トン(玄米))

	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
5年	161	235	249	246	228	202	171	139	112	84	58	44
6年	113	187	200	196	179	159	135	125	109	84	60	51
7年	144	227	250	261	251	234	208	184	165	142	117	
前年差	+32	+40	+50	+65	+71	+74	+73	+59	+57	+59	+57	

【卸売業者の7月末民間在庫量の推移】



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米の在庫量（玄米換算）の値である。
注2：年間の玄米仕入量が4,000トン以上の卸売業者を対象。

【卸売業者の民間在庫量の前年差】

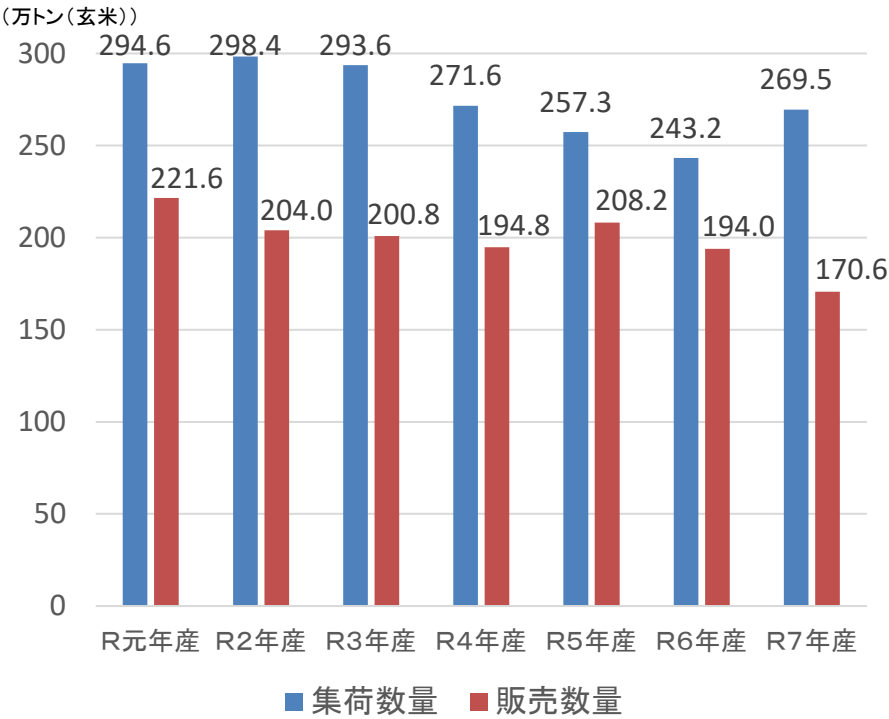
(単位：万トン(玄米))

	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
5年	38	54	54	52	46	42	43	41	34	31	25	21
6年	36	58	59	56	50	46	45	43	40	37	32	33
7年	53	80	81	79	72	67	69	65	57	51	45	
前年差	+17	+23	+22	+22	+22	+21	+24	+22	+18	+14	+13	

令和 7 年産米の集荷業者の集荷・販売状況

- 令和 7 年産米の集荷数量は、令和 8 年 7 月末現在で対前年差 + 26.3 万玄米トンの 269.5 万玄米トン。
- 一方、集荷業者から卸売業者等への販売数量は、7 月末現在で対前年差 ▲ 23.4 万玄米トンの 170.6 万玄米トン。

【集荷業者の集荷・販売数量の推移(7月末時点)(速報)】



資料: 農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注: 集荷数量及び販売数量は、年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の集荷業者を対象とした当該年産の出回りから令和8年7月までの累計数量。

【集荷業者の集荷数量の前年差】

(単位: 万トン(玄米))

	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
5年産	90.8	174.9	209.3	236.3	244.0	248.6	251.5	253.6	255.2	256.6	257.3	257.4
6年産	76.7	158.9	191.1	214.2	219.9	223.2	225.0	240.4	241.7	242.8	243.2	243.2
7年産	94.4	185.5	218.4	249.1	256.4	260.9	266.1	266.0	267.1	268.7	269.5	
前年差	+17.7	+26.6	+27.3	+34.9	+36.5	+37.7	+41.1	+25.6	+25.4	+25.9	+26.3	

	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
うち備蓄米(6年産)	0.3	13.9	14.0	14.0	14.0	14.0

【集荷業者の販売数量の前年差】

(単位: 万トン(玄米))

	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
5年産	8.8	23.3	38.2	56.2	71.2	91.4	113.7	138.1	162.8	187.0	208.2	226.6
6年産	14.3	29.8	45.0	62.0	77.8	95.7	115.0	139.1	159.4	176.5	194.0	207.4
7年産	11.9	28.7	37.5	50.4	63.3	78.6	100.1	118.1	132.2	150.0	170.6	
前年差	▲ 2.4	▲ 1.1	▲ 7.5	▲ 11.6	▲ 14.5	▲ 17.1	▲ 14.9	▲ 21.0	▲ 27.2	▲ 26.5	▲ 23.4	

	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
うち備蓄米(6年産)	0.3	3.8	8.9	12.4	13.9	14.0

米の販売数量等の推移

- 年間玄米仕入数量5万トン以上の米穀販売事業者における令和7年7月から令和8年6月の累計販売数量は、対前年比92%（うち中食・外食事業者等向けは対前年比91%、小売事業者向けは対前年比93%）と前年を下回る数量となっている。
- 総務省が公表している家計調査によると、令和8年6月の米の購入数量は、対前年比90%の4.1kg。

【米穀販売事業者における販売数量の動向（前年同月比）（速報）】

	7年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	8年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7年7月 ～8年6月計	8年 7月
小売事業者向け	94%	84%	99%	107%	92%	91%	87%	97%	100%	85%	85%	94%	93%	101%
中食・外食事業者等向け	93%	91%	94%	93%	90%	89%	90%	93%	93%	91%	92%	96%	91%	94%
販売数量計	94%	87%	96%	100%	91%	90%	89%	95%	97%	87%	88%	95%	92%	98%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000トン以上の販売事業者（年間取扱数量約150万トン（令和7年産主食用米等の生産量747万トンの約2割））である。
2：上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。
3：令和7年3月以降には、売り渡した政府備蓄米を含む。

【購入数量の推移（家計調査）】

(単位：g)

		6年7月 ～7年6月計	7年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	8年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7年7月 ～8年6月計
米	購入数量	60,060	4,340	5,310	7,980	7,940	5,030	4,720	3,410	4,660	4,560	4,490	4,590	4,080	61,110
	前年同期比	104.9%	99.3%	92.7%	125.7%	103.8%	98.4%	90.6%	90.7%	120.7%	104.1%	99.8%	100.0%	89.7%	101.7%
パン	購入数量	41,731	3,327	3,508	3,444	3,470	3,504	3,623	3,388	3,253	3,756	3,381	3,696	3,346	41,696
	前年同期比	97.3%	96.2%	98.9%	103.1%	102.6%	101.0%	101.4%	101.1%	102.4%	100.1%	90.8%	101.0%	101.4%	99.9%
めん類	購入数量	34,195	3,251	3,039	2,471	2,615	2,793	3,304	2,844	2,610	2,864	2,574	2,997	2,764	34,126
	前年同期比	103.1%	109.6%	96.9%	96.6%	101.2%	105.1%	102.3%	105.8%	101.4%	95.7%	91.1%	97.9%	94.6%	99.8%

資料：総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯

精米事業者のとう精数量実績調査結果（とう精数量）について

○ 精米事業者による令和8年7月のとう精数量は、前年（令和7/8年）の同期と比べ、 ▲2.5万玄米トン（対前年比91.9%）。

【とう精数量の推移（速報）】

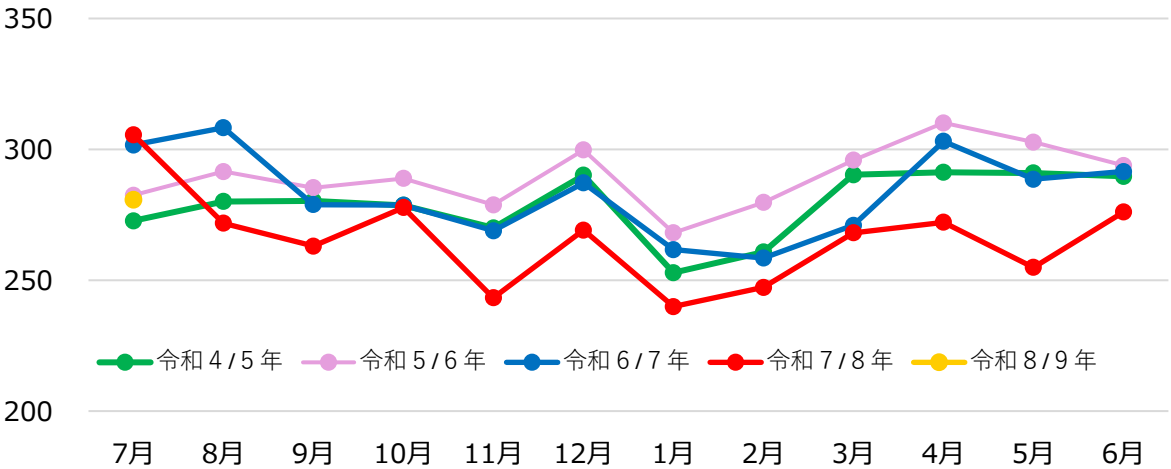
（千玄米トン）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	年計	対前年 同期差	対前年 同期比	対3カ年平均 同期差	対3カ年平均 同期比
①令和4/5年	272.7	280.1	280.3	278.6	270.0	290.1	252.9	260.8	290.3	291.2	291.0	289.7	3,347.7	—	—	—	—
②令和5/6年	282.5	291.5	285.3	288.9	278.8	299.8	268.1	279.7	295.9	310.1	302.8	293.8	3,477.3	+9.8	103.6%	—	—
③令和6/7年 （備蓄米除く）	301.7 (301.7)	308.3 (308.3)	278.9 (278.9)	278.7 (278.7)	268.9 (268.9)	287.2 (287.2)	261.7 (261.7)	258.5 (258.5)	271.0 (271.0)	303.1 (271.8)	288.6 (235.7)	291.5 (202.4)	3,398.0 (3,224.7)	+19.2 (+19.2)	106.8% (106.8%)	—	—
④令和7/8年 （備蓄米除く）	305.6 (206.9)	271.8 (211.0)	263.0 (233.1)	277.7 (256.1)	243.3 (230.8)	269.1 (261.7)	240.0 (233.8)	247.3 (243.3)	268.1 (265.4)	272.1 (271.2)	254.9 (254.4)	276.1 (275.8)	3,189.0 (2,943.4)	+3.9 (▲94.8)	101.3% (68.6%)	—	—
3カ年平均 （②～④）	296.6	290.5	275.7	281.8	263.7	285.4	256.6	261.8	278.3	295.1	282.1	287.1	3,354.7	—	—	—	—
令和8/9年 （備蓄米除く）	280.7 (280.7)												—	▲24.9 (+73.8)	91.9% (135.7%)	▲15.9 (—)	94.6% (—)

注1：とう精数量は、398の精米事業者の実績を集計した速報値。
注2：とう精数量は、玄米投入量である。

（千玄米トン）

とう精数量の推移



精米事業者のとう精数量実績調査結果（精米歩留り）について

- 令和 8 年産の精米歩留り（令和 8 年 7 月）は、88.9%。
- 5 年平均（令和 3 年～令和 7 年）と比較すると、0.5%減少。

【令和 7 年産の精米歩留り】

（千トン）

	令和 7 年 7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	令和 8 年 1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	計
玄米使用数量 【A】	2	19	54	109	131	170	163	187	211	214	208	227	1,695
製品出来高数量 【B】	2	17	48	97	117	151	145	166	187	190	185	202	1,506
精米歩留り 【B/A】	88.7%	88.4%	88.7%	88.9%	89.0%	88.8%	88.7%	88.8%	88.8%	88.9%	88.9%	88.9%	88.8%

【令和 8 年産の精米歩留り（今回の調査結果）】

（千トン）

	令和 8 年 7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	令和 9 年 1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	計
玄米使用数量 【A】	11												11
製品出来高数量 【B】	10												10
精米歩留り 【B/A】	88.9%												88.9%

注）とう精数量実績（精米歩留り）は、398の精米事業者の実績を集計した速報値。

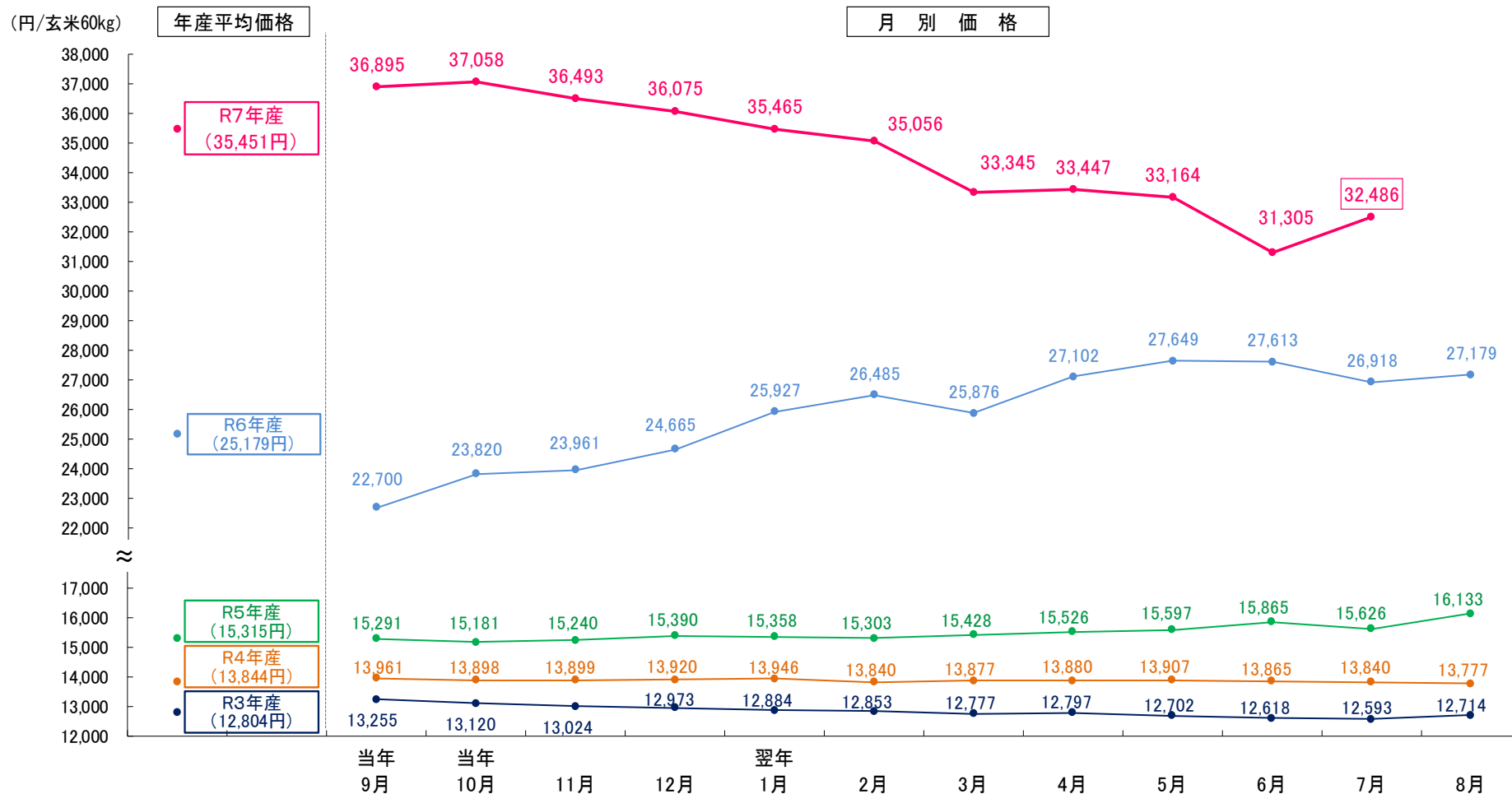
（参考）過去（令和 3～7 年産）の精米歩留り

3 年 産	4 年 産	5 年 産	6 年 産	7 年 産	5 年 平 均
90.3%	90.0%	88.6%	89.2%	88.8%	89.4%

- 注） 1 令和 3～6 年産の精米歩留りは、令和 7 年 6 月末時点の 43 事業者（大手卸売業者 10 社、地方卸売業者 23 社、米穀店 10 社）を対象に実施した調査結果。
2 令和 7 年産の精米歩留りは、398 の精米事業者の令和 7 年 7 月～令和 8 年 6 月の実績（速報値）による平均。

相対取引価格の推移（令和3年産～令和7年産）

- 令和7年産米の令和8年7月の相対取引価格は、全銘柄平均で32,486円/玄米60kgとなり、対前年同月+5,568円（+21%）、対前月+1,181円（+4%）となったところ。また、取引数量は、7.9万トン（対前年同月比+95%）となった。
- 年産平均価格は35,451円/玄米60kgとなり、対前年+10,272円（+41%）となった。



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

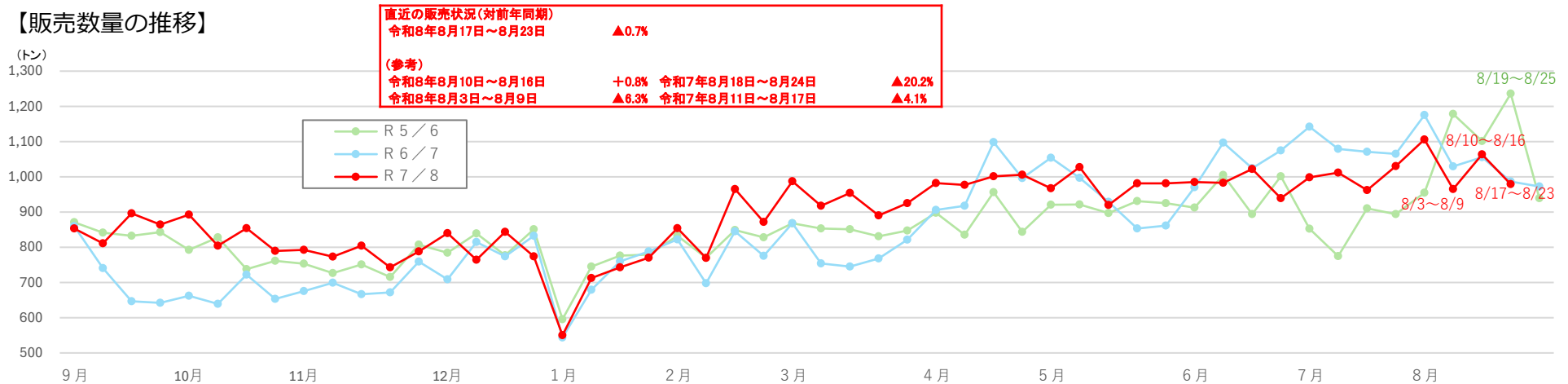
注1：運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。

2：グラフ左側の年産平均価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（7年産は出回りから令和8年7月までの速報値）の通年平均価格、右側は月ごとの価格の推移。

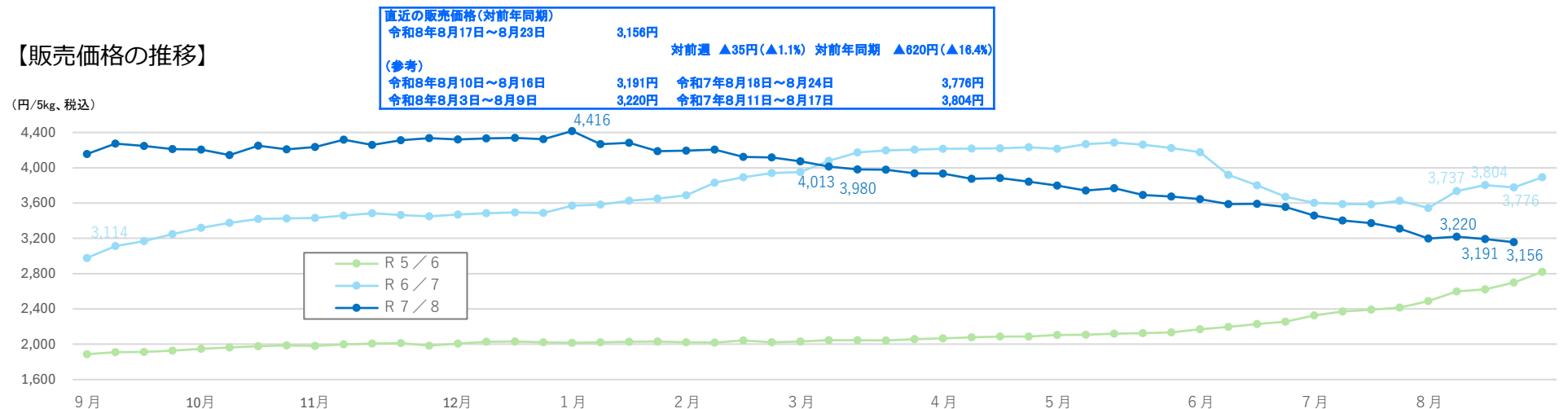
スーパーでの販売数量・価格の推移（POSデータに基づき作成、全国・週次）

- 令和8年8月17日の週の平均価格は、3,156円/5kg（前週比▲35円）。
- 平均価格については、令和7年6月以降、随意契約による政府備蓄米の流通により低下した後、新米の出回り等を背景に上昇。9月以降は4,000円/5kgを上回る水準で推移したが、令和8年1月以降下落基調に転じ、2週連続で3,200円を下回った。
- 販売数量については、令和7年6月以降、随意契約による政府備蓄米の流通時期に増加、その後は平年並みに推移し、令和8年2月以降の価格下落局面で、増加基調。

【販売数量の推移】



【販売価格の推移】

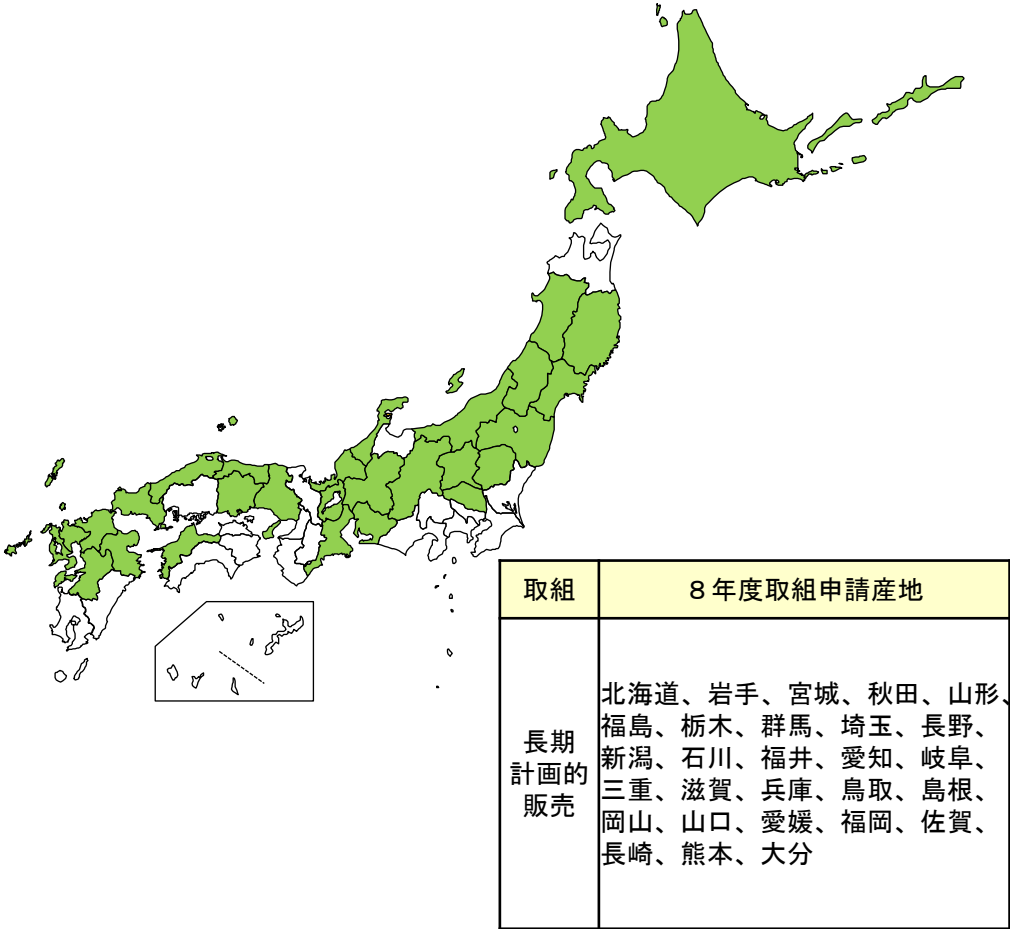


資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成
 注1：(株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,000店舗のスーパーから購入したデータに基づくものである。
 注2：週次データを月ベースに当てはめているため、実際の月とは若干異なる場合がある。
 注3：『ブレンド米等』には、ブレンド米のほか、PB商品等も含まれる。
 注4：ラウンドの関係で対前週比等の数値は一致しないことがある。

米穀周年供給・需要拡大支援事業の令和8年度の状況について

- 長期計画的販売：32万トン（28道県）の申請
- 民間備蓄実証：公募数量5万トンに対して6.1万トンの申請があり、これを全量6.1万トン実施
- 長期計画的販売事業の活用により、加工用米等の多様な米のニーズを満たすための取組等を推進

長期計画的販売に申請している産地



民間備蓄実証数量

業態	事業者数	実証数量
集荷業者	2	3.0万トン
卸売業者	7	2.6万トン
需要者との コンソーシアム	2	0.5万トン